

平成 28 年社会生活基本調査

－ 生活行動に関する結果 －

【 静 岡 県 の 概 要 】

静岡県経営管理部情報統計局統計調査課

－ 利用上の主な用語 －

- 行 動 者 数 過去 1 年間（平成 27 年 10 月 20 日～平成 28 年 10 月 19 日）に該当する種類の活動を行った人（10 歳以上）の数をいう。
- 行 動 者 率 行動者数の 10 歳以上人口に占める割合（%）をいう。
- 平均行動日数 行動者について平均した過去 1 年間の行動日数をいう。

結果分析にあたっての留意点

「生活行動」について、平成 28 年調査と 23 年調査との比較を行う場合は、以下に留意願います。

区 分	注意を要する項目
趣味・娯楽	28 年調査では、「映画館以外の映画鑑賞」に『テレビ』が含まれる。 ○28 年調査：「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」 ○23 年調査「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画は除く)」
旅行・行楽	28 年調査では、『業務出張・研修、修学旅行、ボランティア活動に参加するための旅行』は含まれない。 ○28 年調査：調査項目なし ○23 年調査：「業務出張・研修・その他（国内）」、「業務出張・研修・その他（海外）」

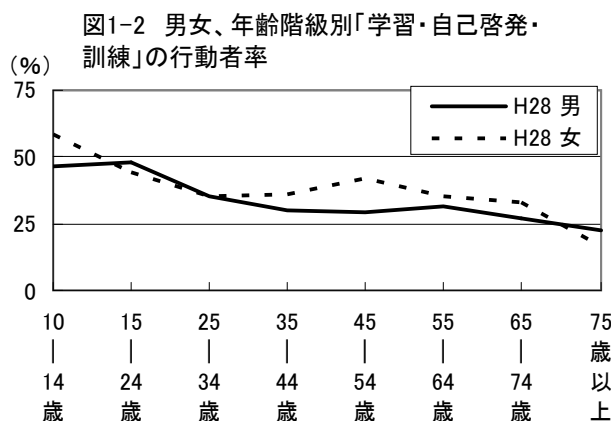
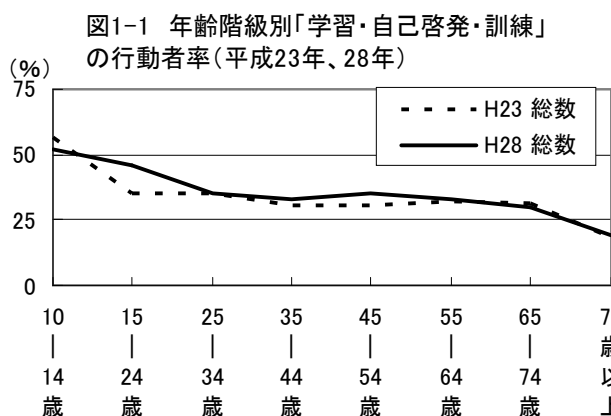
1 学習・自己啓発・訓練

(1) 男性の31.9%、女性の34.7%が何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行っている

「学習・自己啓発・訓練」を行った人は109万7千人、行動者率は33.3%となっている。男女別にみると、男性が51万7千人、女性が58万人となっており、行動者率は男性が31.9%、女性が34.7%で、男性より女性が2.8ポイント高くなっている。

行動者率は平成23年に比べ1.3ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が1.2ポイント、女性が1.5ポイント上昇している。

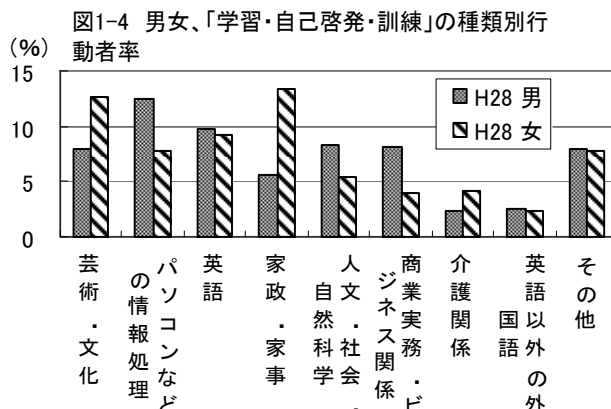
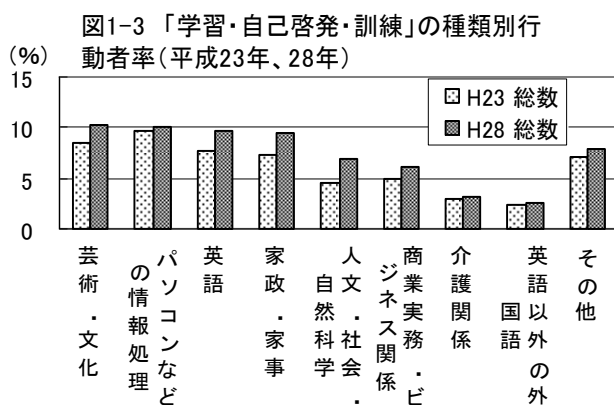
行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が52.1%と最も高く、ついで15～24歳が45.9%、25歳～64歳は30%台で推移している。また、15～24歳は平成23年より10.4ポイント上昇している。男女別にみると10～14歳、35歳～74歳の年齢階級で女性の方が高くなっている。(図1-1、図1-2)



(2) 行動者率は5年前よりすべての種類で上昇

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に行動者率をみると、「芸術・文化」が10.3%と最も高く、次いで「パソコンなどの情報処理」が10.0%、「英語」が9.6%などとなっている。また、平成23年と比べると、すべての種類で上昇している。上昇幅をみると「人文・社会・自然科学」が2.3ポイントと最も高く、次いで「家政・家事」が2.2ポイント、「英語」が2.0ポイントである。(図1-3)

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が12.5%と最も高く、次いで「英語」が9.8%、「人文・社会・自然科学」8.4%となっている。女性は「家政・家事」が13.3%と最も高く、次いで「芸術・文化」が12.6%、「英語」が9.3%となっている。(図1-4)



(3) 「パソコンなどの情報処理」は男性が15～24歳、女性が10～14歳で最も高くなっている

年齢階級別に行動者率をみると、「英語」、「芸術・文化」は男女とも10～14歳、「パソコンなどの情報処理」は男性が15～24歳、女性が10～14歳で最も高くなっている。

(図1-5)

平成23年と比べると、「芸術・文化」は10～14歳、55～64歳でそれぞれ5.2ポイントと4.5ポイント上昇している。また、「家政・家事」は25～34歳を除きすべての年齢階級で上昇している。(図1-6)

図1-5 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女、年齢階級別行動者率

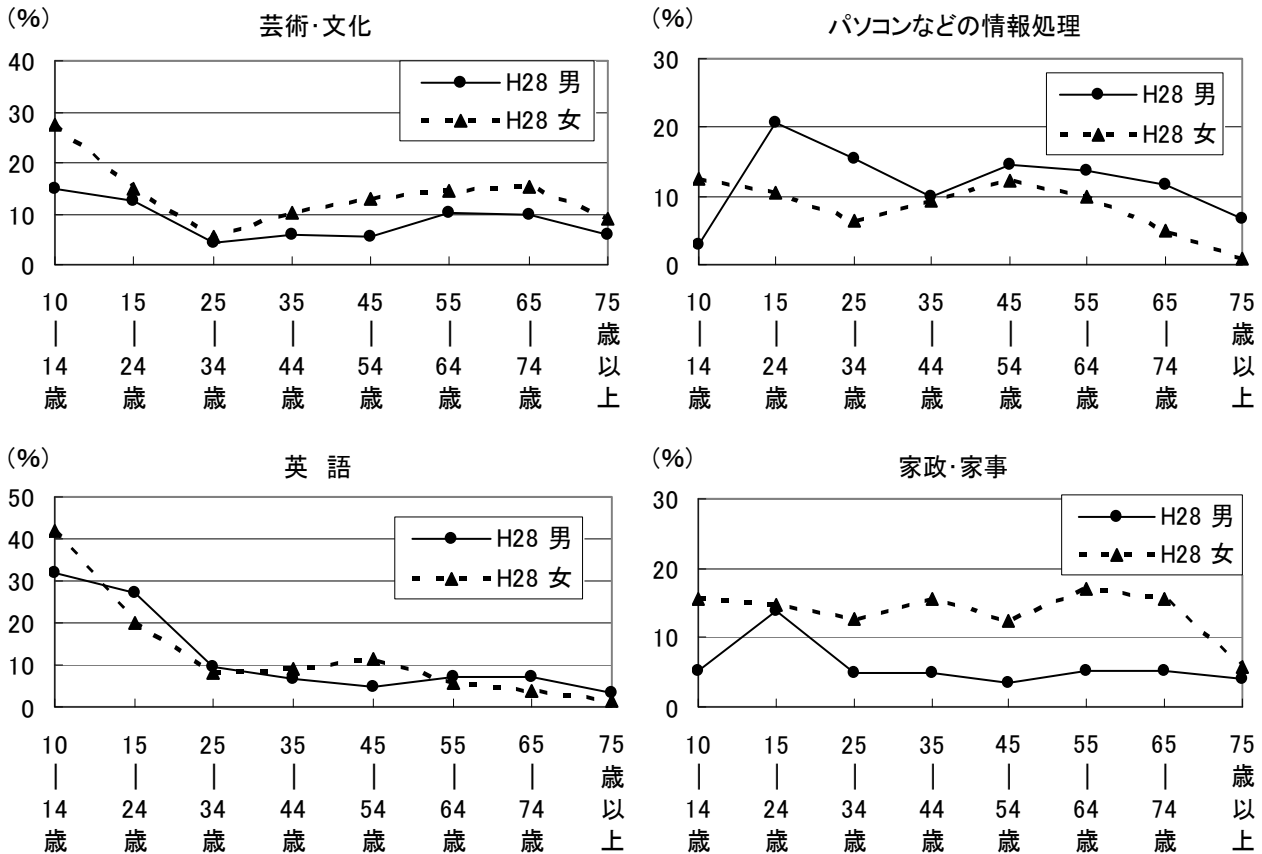
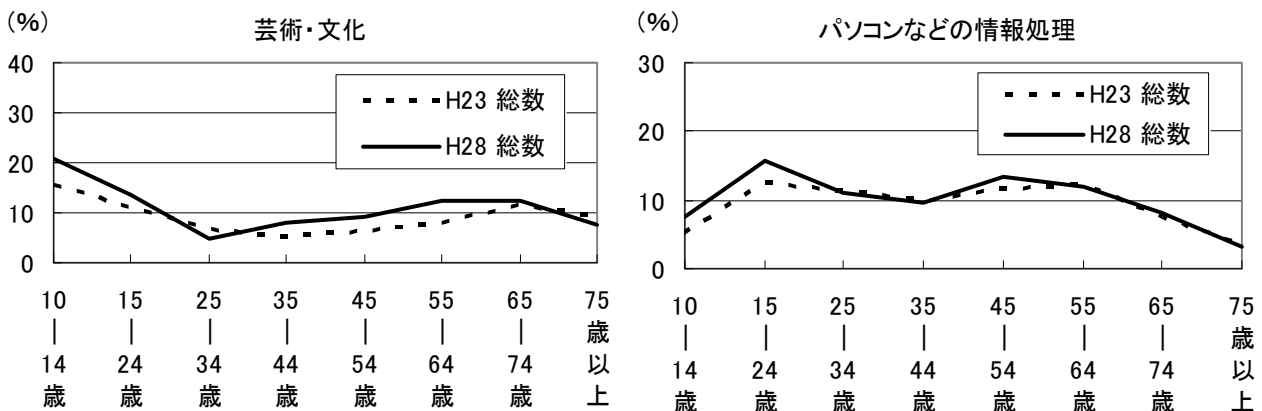
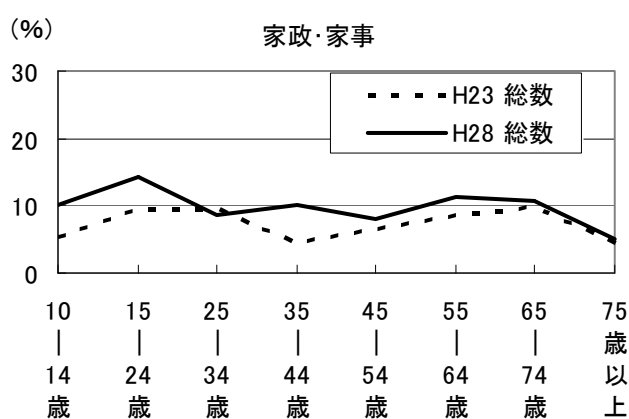
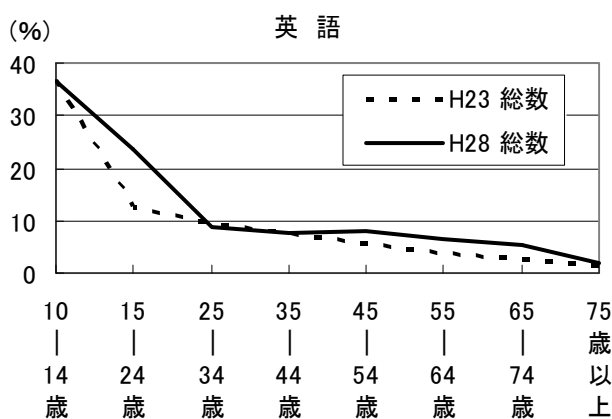


図1-6 「学習・自己啓発・訓練」の種類、年齢階級別行動者率(平成23年、28年)





(4) 本県の行動者率は総合 27 位

本県の「学習・自己啓発・訓練」を行った人の行動者率は、全都道府県中 27 位となっている。

種類別にみると、「英語」が 20 位 (9.6%)、次いで「芸術・文化」が 22 位 (10.3%)、「商業実務・ビジネス関係」が 23 位 (6.1%) などとなっている。(表 1-1)

表 1-1 「学習・自己啓発・訓練」に係る行動者率の全国比較表

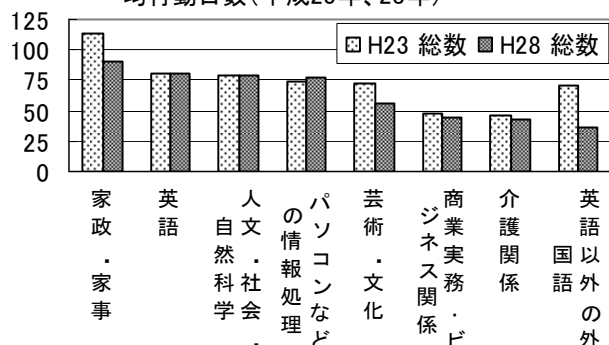
「学習・自己啓発・訓練」の種類	全国順位			静岡県の行動者率 (%)			全国の行動者率 (%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	27	28	22	33.3	31.9	34.7	36.9	36.5	37.4
英語	20	19	19	9.6	9.8	9.3	11.9	12.6	11.2
芸術・文化	22	27	17	10.3	8.0	12.6	11.7	9.7	13.5
商業実務・ビジネス関係	23	22	22	6.1	8.2	4.0	7.2	10.0	4.5
英語以外の外国語	25	20	29	2.5	2.6	2.4	3.4	3.3	3.6
パソコンなどの情報処理	31	34	35	10.0	12.5	7.7	12.5	15.4	9.8
人文・社会・自然科学	32	33	34	6.9	8.4	5.4	8.6	10.5	6.8
家政・家事	38	25	38	9.5	5.6	13.3	11.2	6.5	15.7
介護関係	41	24	38	3.2	2.4	4.1	3.5	2.5	4.5

(5) 「家政・家事」などの平均行動日数は5年前より減少

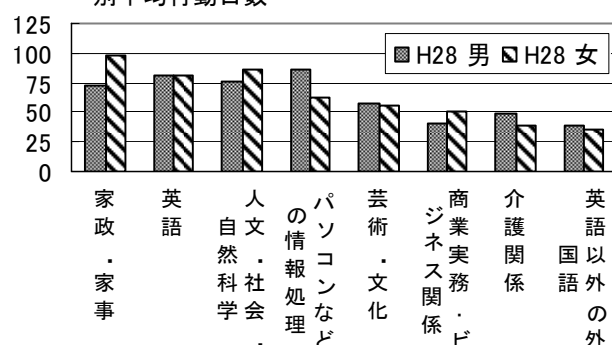
「学習・自己啓発・訓練」の種類別の平均行動日数は、「家政・家事」が 90.8 日と最も多く、次いで「英語」が 80.7 日となっている。また、平成 23 年と比べると、増加したのは「パソコンなどの情報処理」など 2 種類であり、「英語以外の外国語」など 6 種類は減少している。(図 1-7)

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が 86.2 日、女性は「家政・家事」が 98.6 日で最も多くなっている。(図 1-8)

(日/年) 図1-7 「学習・自己啓発・訓練」の種類別平均行動日数(平成23年、28年)



(日/年) 図1-8 男女、「学習・自己啓発・訓練」の種類別平均行動日数



2 スポーツ

(1) 男性の72.4%、女性の64.1%が何らかの「スポーツ」を行っている

「スポーツ」を行った人は224万7千人、行動者率は68.2%となっている。

男女別にみると、男性が117万6千人、女性が107万1千人となっており、行動者率は男性が72.4%、女性が64.1%で、男性が女性より8.3ポイント高くなっている。

行動者率は平成23年に比べ4.9ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が3.8ポイント、女性が5.9ポイント上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が86.3%と最も高く、以降15～74歳は60～70%台で推移している。平成23年と比べると10～14歳を除くすべての年齢階級で上昇している。また、男女別にみると、すべての年齢階級で男性の方が高くなっている。(図2-1、図2-2)

図2-1 年齢階級別「スポーツ」の行動者率
(平成23年、28年)

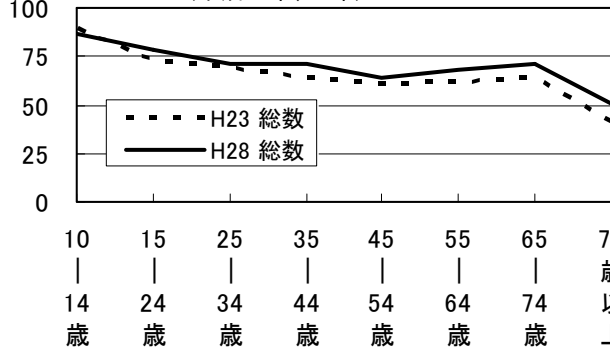
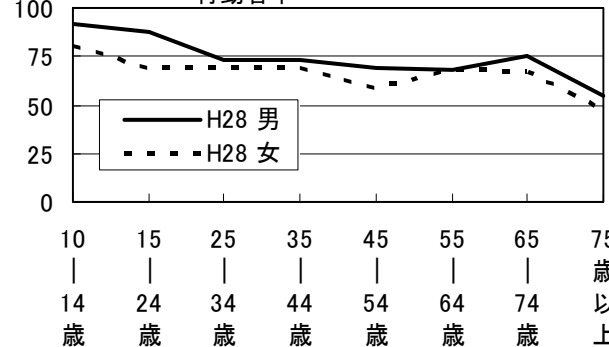


図2-2 男女、年齢階級別「スポーツ」の行動者率



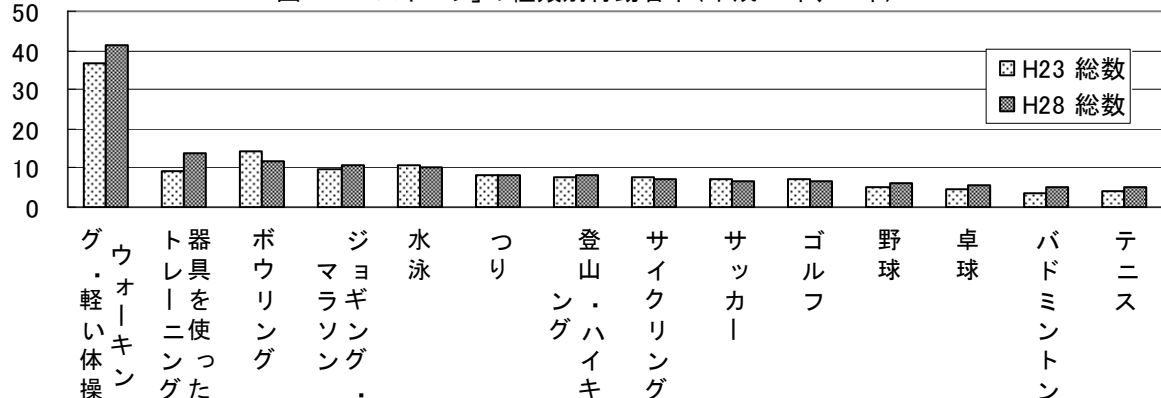
(注) 「スポーツ」には、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 行動者率は5年前より総数で4.9ポイント上昇

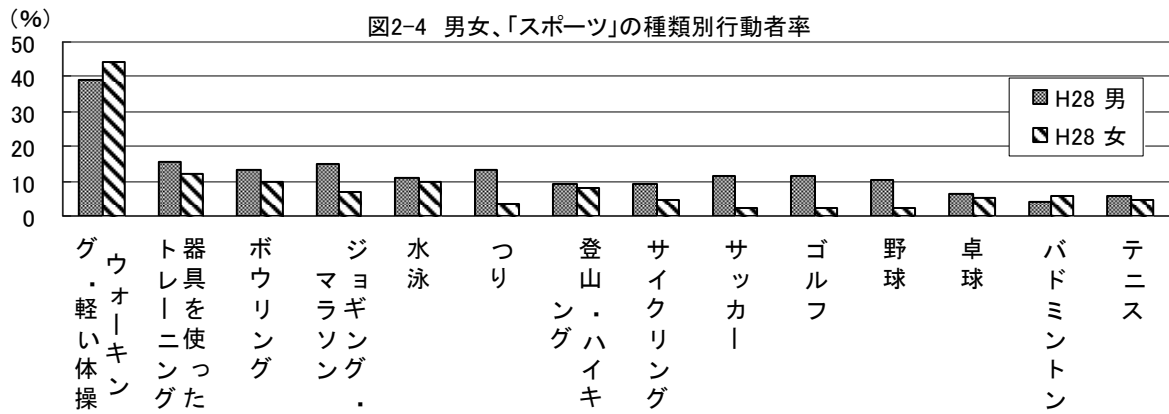
「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が41.5%で最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」が14.0%となっている。また、平成23年と比べると、総数では4.9ポイント上昇し、「器具を使ったトレーニング(+4.7ポイント)」や「ウォーキング・軽い体操(+4.6ポイント)」などが上昇している。一方「ボウリング(△2.6ポイント)」などは低下している。(図2-3)

男女別にみると、男女いずれも「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」、以下、男性3位は「ジョギング・マラソン」、4位は同率で「ボウリング」、「釣り」、女性3位は「ボウリング」、4位は「水泳」、5位「登山・ハイキング」などの順となっている。(図2-4)

図2-3 「スポーツ」の種類別行動者率(平成23年、28年)



(注) 行動者率(総数)が5%以上の種類を表章。



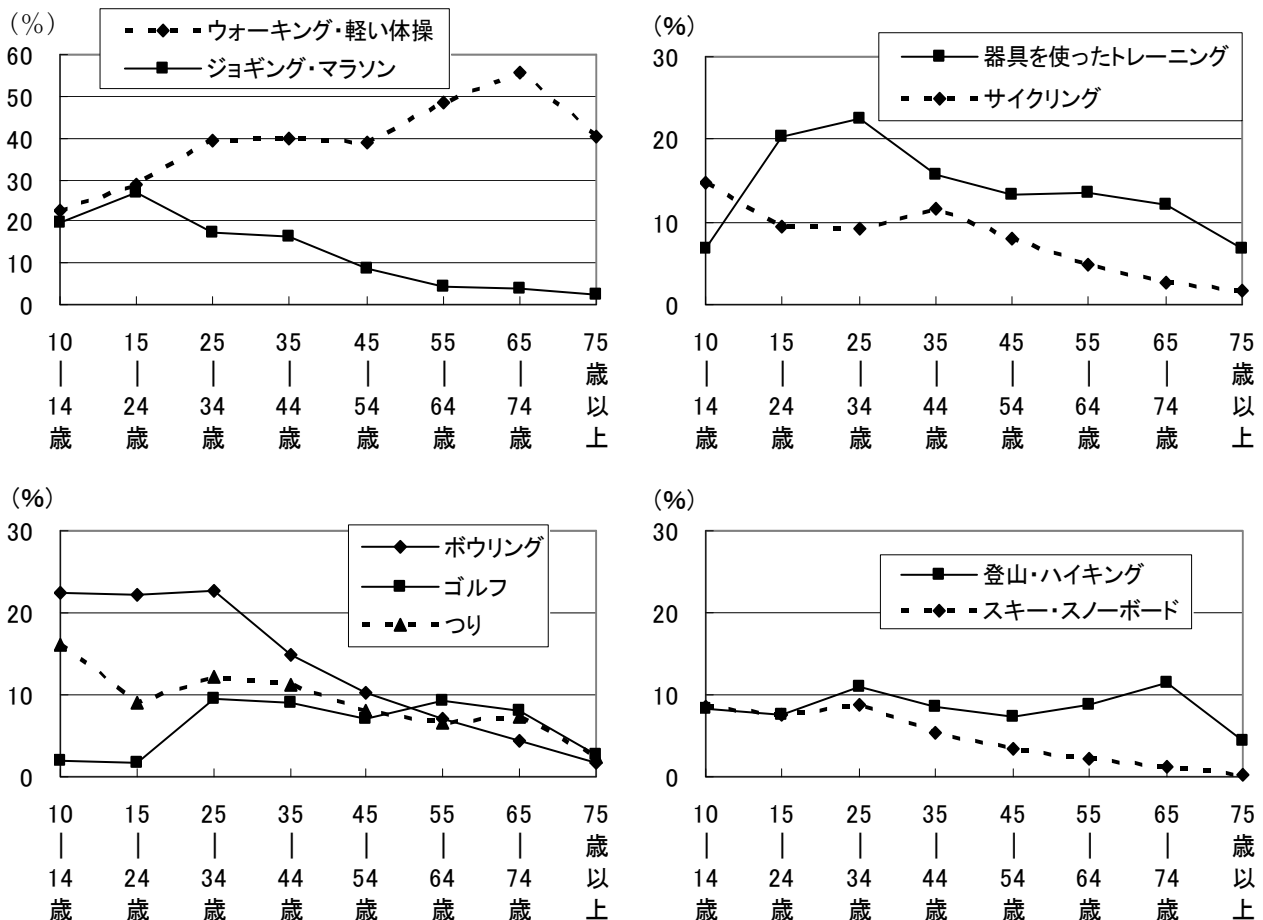
(注) 行動者率（総数）が5%以上の種類を表章。

(3) 「ウォーキング・軽い体操」などの行動者率は65～74歳で最も高い

種類別に年齢階級別の行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」、「登山・ハイキング」などは65～74歳、「水泳」、「サッカー」、「卓球」などは10～14歳が最も高くなっている。(図2-5)

平成23年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」及び「器具を使ったトレーニング」は10歳～14歳を除く全ての年齢階級で行動者率が上昇している。一方、「ボウリング」は65歳以上を除く年齢階級で行動者率が低下している。(図2-6)

図2-5 主な「スポーツ」の種類、年齢階級別行動者率



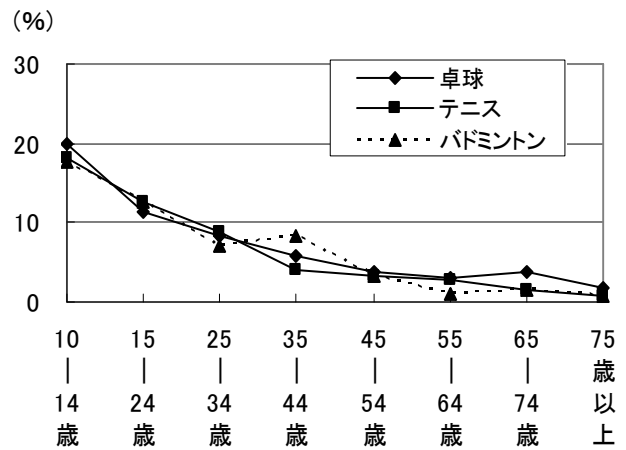
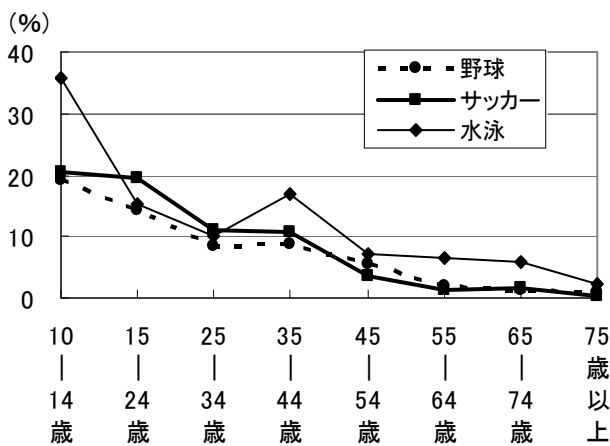
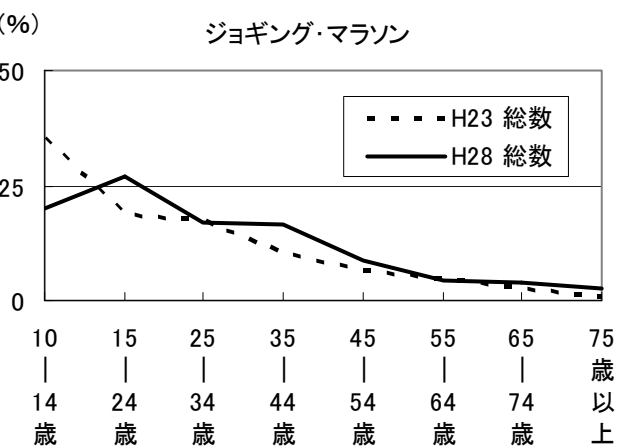
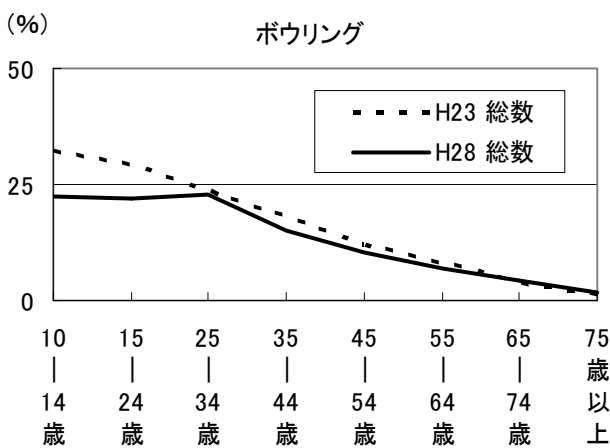
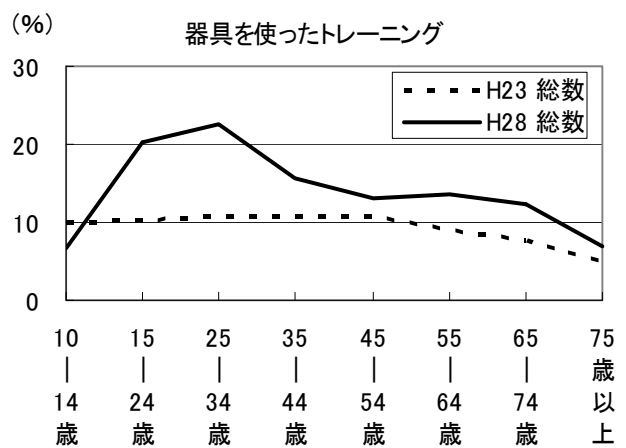
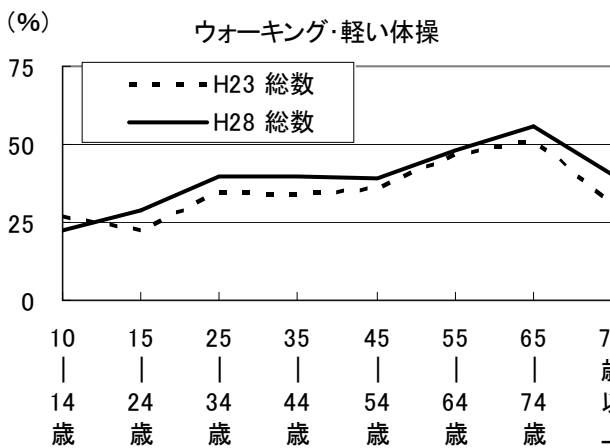


図2-6 主な「スポーツ」の種類、年齢階級別行動者率(平成23年、28年)



(4) 本県の行動者率は総合13位

本県の「スポーツ」を行った人の行動者率は、全都道府県中13位となっている。

「スポーツ」を種類別にみると、「サッカー」が3位(6.8%)、「柔道」が6位(0.7%)と全国10位以内に入っている。

男女別にみると、男性は「サッカー」が2位(11.5%)、「柔道」が5位(1.2%)、「ウォーキング・軽い体操」が7位(38.9%)、女性は「テニス」が10位(4.5%)、「水泳」が11位(9.6%)、「ウォーキング・軽い体操」が19位(44.1%)などとなっている。(表2-1)

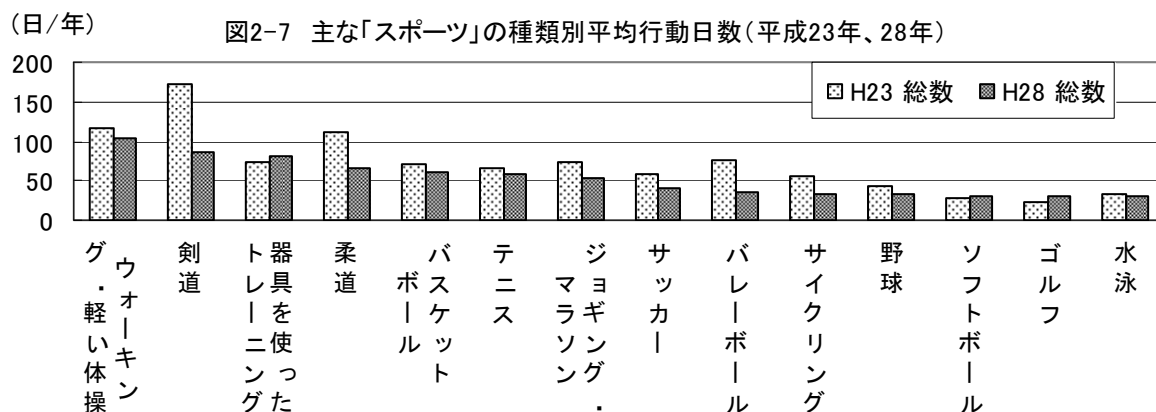
表 2-1 「スポーツ」に係る行動者率の全国比較表

「スポーツ」の種類	全国順位			静岡県の行動者率 (%)			全国の行動者率 (%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	13	21	12	68.2	72.4	64.1	68.8	73.5	64.4
サッカー	3	2	21	6.8	11.5	2.1	6.0	9.8	2.3
柔道	6	5	24	0.7	1.2	0.2	0.6	0.9	0.2
テニス	11	17	10	5.0	5.5	4.5	5.0	5.7	4.3
水泳	13	13	11	10.2	10.9	9.6	11.0	11.7	10.3
ウォーキング・軽い体操	13	7	19	41.5	38.9	44.1	41.3	37.7	44.8
サイクリング	19	18	23	7.0	9.2	4.8	7.9	10.0	5.9
器具を使ったトレーニング	19	17	27	14.0	15.8	12.2	14.7	16.4	13.1
登山・ハイキング	21	22	21	8.4	9.1	7.8	10.0	10.7	9.4
バスケットボール	23	18	39	4.0	5.5	2.5	4.3	5.5	3.1
ジョギング・マラソン	24	20	36	10.8	15.1	6.7	12.1	16.0	8.3
ボウリング	25	30	21	11.6	13.3	9.9	12.7	15.1	10.3
卓球	27	30	26	5.8	6.2	5.4	6.8	7.6	6.0
ゴルフ	27	29	22	6.7	11.5	2.1	7.9	13.5	2.5
ゲートボール	28	26	30	0.7	0.8	0.5	0.7	0.9	0.6
スキー・スノーボード	30	27	28	4.0	5.2	2.8	5.4	6.7	4.1
剣道	34	19	43	0.5	0.9	0.1	0.6	0.9	0.3
つり	34	35	26	8.4	13.3	3.7	8.7	13.7	3.9
ソフトボール	36	36	33	2.3	3.7	1.0	2.7	4.2	1.2
バレーボール	37	34	41	4.0	3.7	4.2	4.5	4.1	5.0
野球	40	41	34	6.1	10.1	2.2	7.2	11.9	2.7
バドミントン	45	45	39	5.2	4.2	6.0	6.7	6.2	7.1

(5) 平均行動日数は5年前より「剣道」など16種目で減少

「スポーツ」の種類別に平均行動日数をみると、「ウォーキング・軽い体操」が102.8日で最も多く、次いで「剣道」が86.1日、「器具を使ったトレーニング」が80.7日などとなっている。また、平成23年と比べると、「剣道 (△87.2日)」など16種目で減少している。一方で、「器具を使ったトレーニング (+8.2日)」など4種目は増加している。(図2-7)

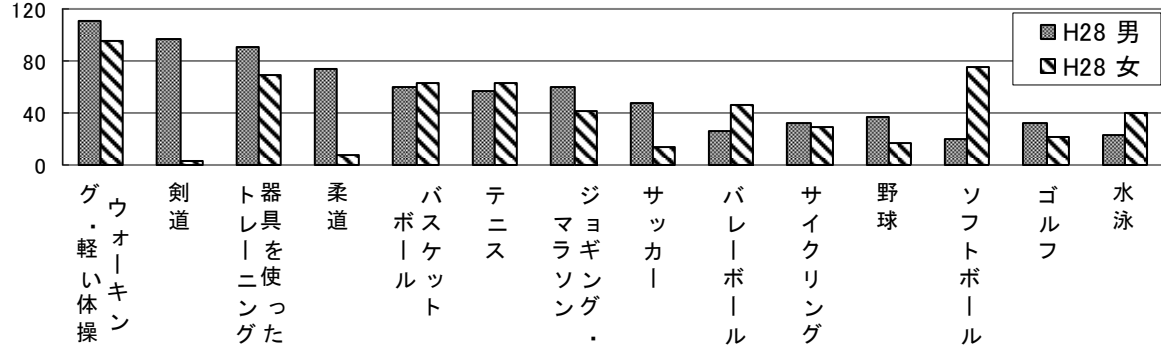
男女別にみると、男女とも「ウォーキング・軽い体操」が最も多く、次いで男性は「剣道」、女性は「ソフトボール」となっている。(図2-8)



(注) 平均行動日数(総数)が30日以上の種類を表章。

(日/年)

図2-8 主な「スポーツ」の種類別平均行動日数



(注) 平均行動日数（総数）が30日以上の種類を表章。

3 趣味・娯楽

(1) 男性の 87.2%、女性の 86.0%が何らかの「趣味・娯楽」を行っている

「趣味・娯楽」を行った人は 285 万 2 千人で、行動者率は 86.6%となっている。

男女別にみると、男性が 141 万 6 千人、女性が 143 万 6 千人となっており、行動者率は男性が 87.2%、女性が 86.0%で、男性が女性より 1.2 ポイント高くなっている。

平成 23 年に比べ行動者率は 3.4 ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が 4.4 ポイント、女性が 2.5 ポイントの上昇である。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14 歳が 94.4%と最も高く、以降 15～74 歳は 80～90%台で推移している。平成 23 年に比べると 10～14 歳を除くすべての年齢階級で上昇している。これを男女別にみると、25～44 歳と 75 歳以上を除く年齢階級で女性の方が高くなっている。(図 3-1、図 3-2)

図3-1 年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率
(平成23年、28年)

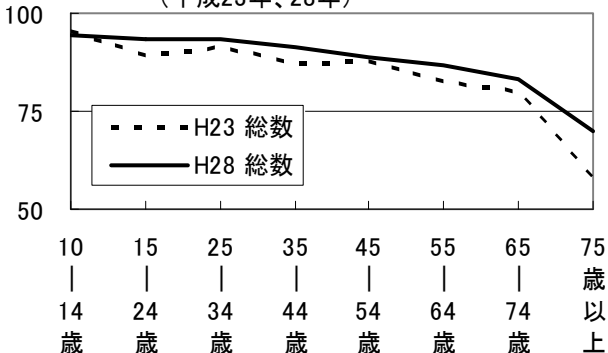
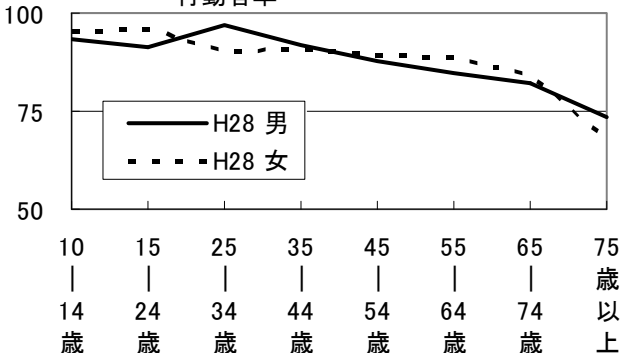


図3-2 男女、年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率



(2) 「映画館以外での映画鑑賞」、「CDなどによる音楽鑑賞」などの行動者率が高い

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「映画館以外での映画鑑賞」が 48.8%と最も高く、次いで「CDなどによる音楽鑑賞」が 44.2%、「趣味としての読書」が 36.5%などとなっている。

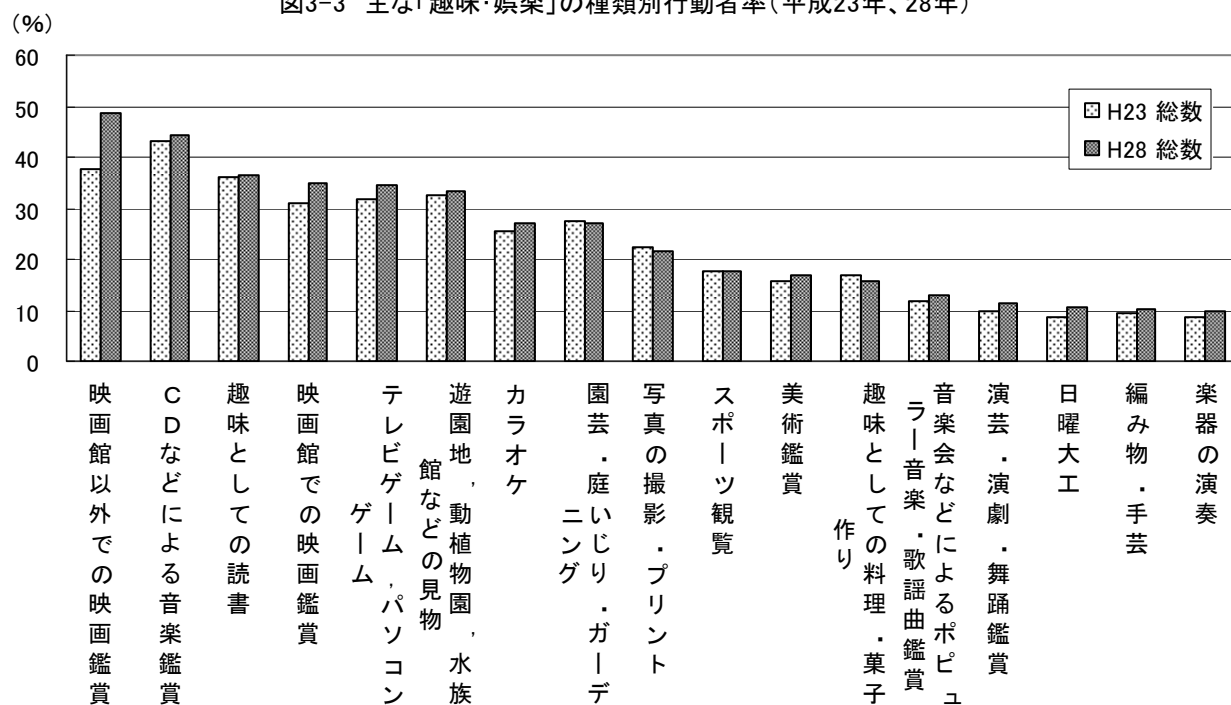
また、平成 23 年と比べると、「映画館以外での映画鑑賞」が 11.1 ポイント、「映画館での映画鑑賞」が 4.2 ポイント、「テレビゲーム・パソコンゲーム」が 3.0 ポイント上昇している。(図 3-3)

男女別にみると、男女とも「映画館以外での映画鑑賞 (男 50.6%、女 47.0%)」が最も高く、次いで「CDなどによる音楽鑑賞 (男 45.3%、女 43.2%)」となっている。

3位は、男性「テレビゲーム・パソコンゲーム (38.9%)」、女性「趣味としての読書 (41.3%)」となっている。(図 3-4)

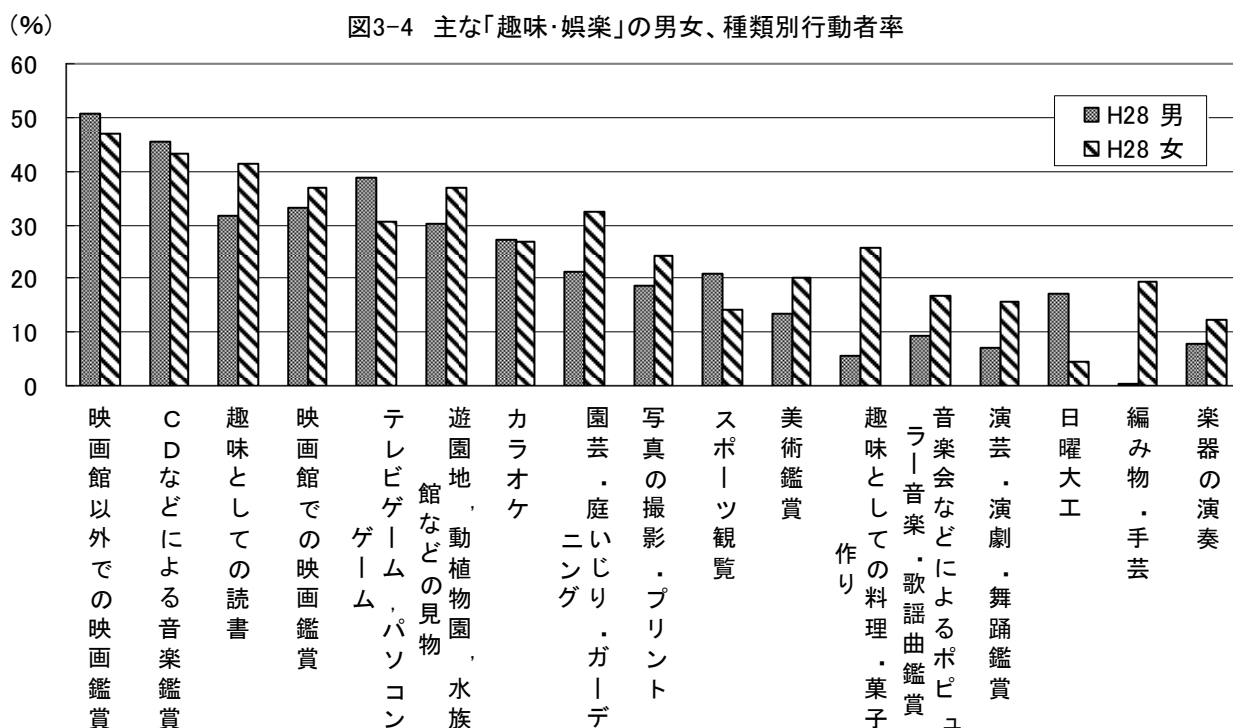
※「映画館以外での映画鑑賞」は、平成 23 年は「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画は除く)」として調査。平成 28 年は「映画館以外での映画鑑賞(テレビ・DVD・パソコンなど)」として調査しており、定義の変更があるため比較には注意を要する。

図3-3 主な「趣味・娯楽」の種類別行動者率(平成23年、28年)



(注) 行動者率が10%以上の種類を表章。

図3-4 主な「趣味・娯楽」の男女、種類別行動者率



(注) 行動者率が10%以上の種類を表章。

(3) 「テレビゲーム・パソコンゲーム」は10～14歳、「CDなどによる音楽鑑賞」は15～24歳で行動者率が最も高い

年齢階級別に行動者率をみると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」、「趣味としての読書」などは10～14歳、「CDなどによる音楽鑑賞」、「映画鑑賞（映画館及び映画館以外）」、「カラオケ」などは15～24歳、「遊園地、動植物園、水族館などの見物」、「趣味としての料理・菓子作り」、「パチンコ」などは25～34歳、「園芸・庭いじり・ガーデニング」、「日曜大工」などは65～74歳で最も高くなっている。

また、映画鑑賞について「映画館」と「映画館以外」を比べると、10～24歳までは「映画館」、それ以外の年齢階級では「映画館以外」での行動率が高い。（図3-5）

平成23年と比べると、「趣味としての読書」と「スポーツ観戦」について、総数ではそれぞれ0.4ポイントの上昇と0.1ポイントの低下となっているが、10～14歳では17.0ポイントと16.1ポイントの低下となっている。また、「映画館での映画鑑賞」は75歳以上が1.1ポイント低下しているのを除き、すべての年齢階級で上昇している。（図3-6）

図3-5 主な「趣味・娯楽」の種類、年齢階級別行動者率

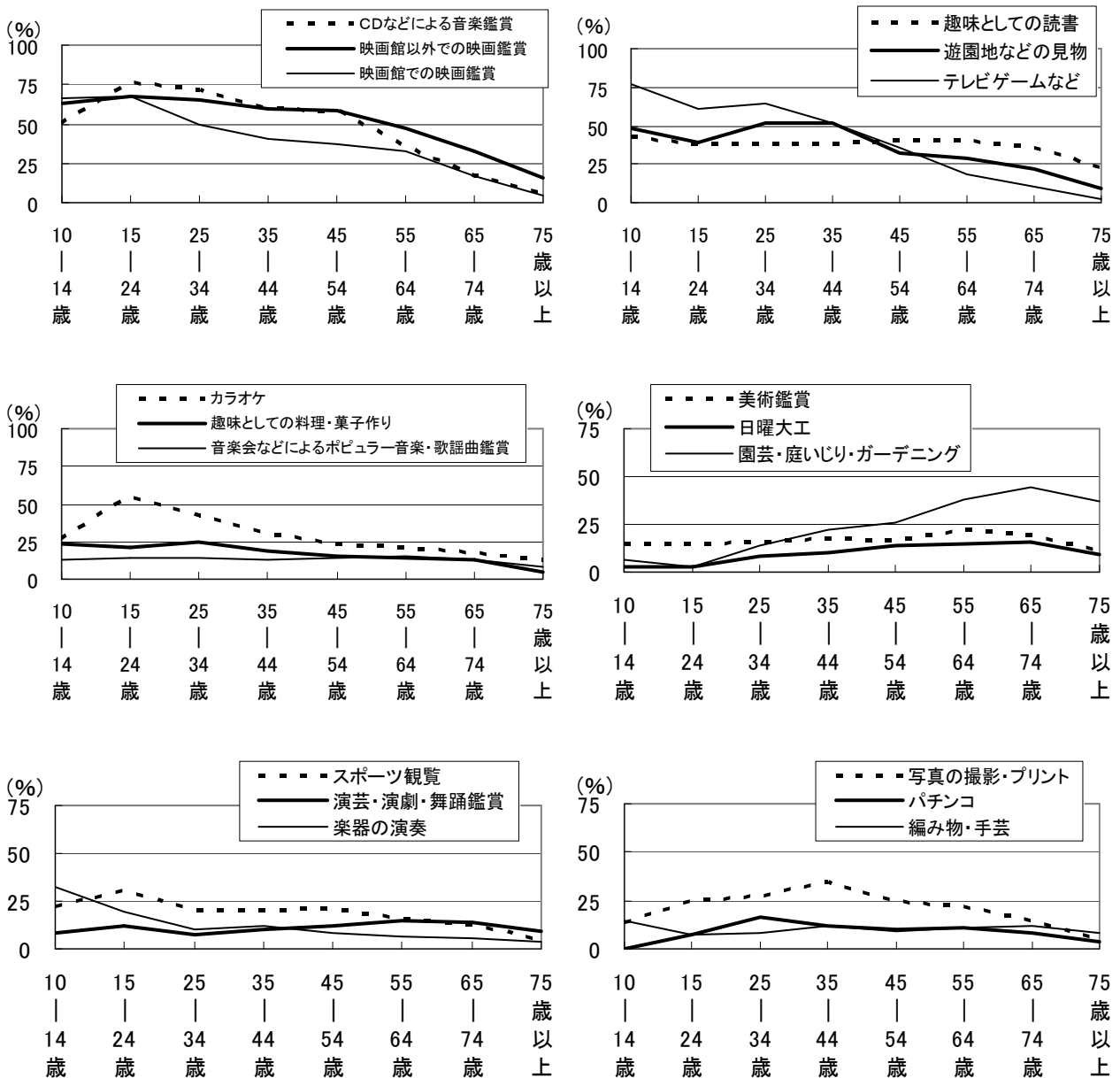
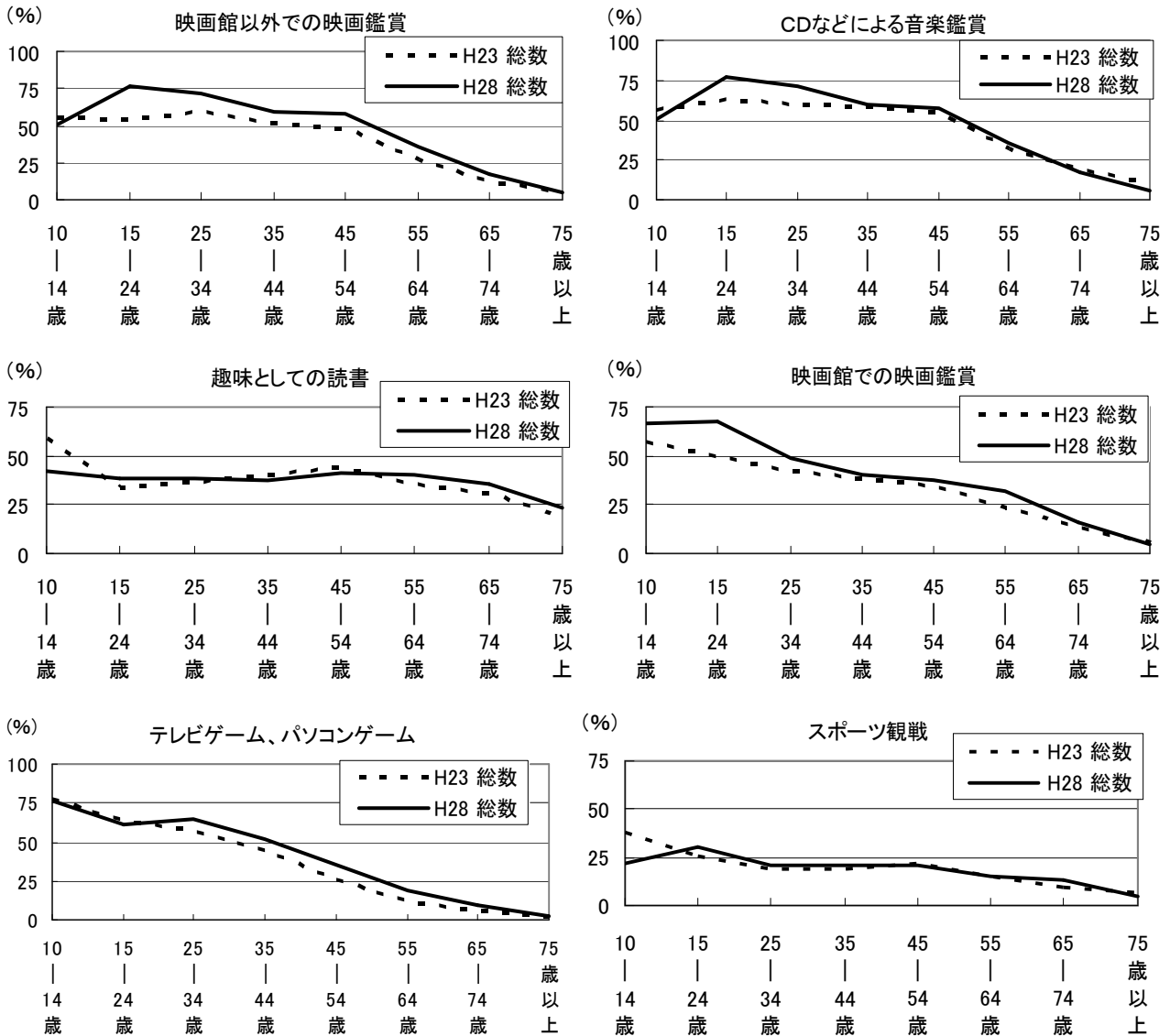


図 3-6 主な「趣味・娯楽」の種類、年齢階級別行動者率(平成 23 年、28 年)



(4) 本県の行動者率は総合 16 位

本県の「趣味・娯楽」を行った人の行動者率は、全都道府県中 16 位となっている。種類別にみると、「洋舞・社交ダンス」が 8 位 (1.5%)、「音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」が 14 位 (13.1%)、15 位が「趣味としての読書 (36.5%)」、「遊園地、動植物園、水族館などの見物 (33.5%)」及び「茶道 (1.7%)」などとなっている。

また、順位が最も低い「将棋」は 42 位 (2.4%) となっている。(表 3-1)

表 3-1 「趣味・娯楽」に係る行動者率の全国比較表

「趣味・娯楽」の種類	全国順位			静岡県の行動者率 (%)			全国の行動者率 (%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	16	16	18	86.6	87.2	86.0	87.0	87.2	86.8
洋舞・社交ダンス	8	2	13	1.5	0.8	2.2	1.4	0.6	2.3
音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞	14	13	16	13.1	9.4	16.6	13.7	9.9	17.3
茶道	15	15	15	1.7	0.6	2.8	1.6	0.6	2.5
趣味としての読書	15	18	17	36.5	31.7	41.3	38.7	34.8	42.4
遊園地、動植物園、水族館などの見物	15	15	15	33.5	30.1	36.9	33.8	29.9	37.5
邦楽	16	17	17	2.8	2.6	3.0	2.9	2.6	3.2
テレビゲーム、パソコンゲーム	16	18	15	34.6	38.9	30.5	35.8	40.6	31.4
絵画・彫刻の制作	17	22	11	3.3	2.1	4.6	3.5	2.6	4.5
楽器の演奏	18	20	18	10.0	7.7	12.3	10.9	8.7	13.0
邦舞・おどり	18	12	22	1.7	0.8	2.5	1.6	0.7	2.4
和裁・洋裁	18	15	14	6.2	0.7	11.5	6.4	0.8	11.7
キャンプ	18	17	23	5.5	6.8	4.2	6.4	7.6	5.4
華道	20	11	22	1.9	0.3	3.4	1.8	0.3	3.3
陶芸・工芸	20	20	18	2.0	1.3	2.7	2.2	1.5	2.9
音楽会などによるクラシック音楽鑑賞	22	19	25	8.5	6.4	10.5	10.1	7.3	12.9
CD、スマートフォンなどによる音楽鑑賞	22	20	32	44.2	45.3	43.2	49.0	49.0	48.9
コーラス・声楽	22	36	11	2.4	0.9	4.0	2.8	1.4	4.2
映画館以外での映画鑑賞	23	16	27	48.8	50.6	47.0	52.1	52.6	51.6
詩・和歌・俳句・小説などの創作	23	30	14	2.2	1.3	3.2	2.5	1.9	3.0
美術鑑賞	24	28	22	16.8	13.3	20.1	19.4	16.0	22.6
編み物・手芸	24	39	20	10.1	0.5	19.3	10.6	0.9	19.8
囲碁	24	31	12	1.1	1.8	0.4	1.2	2.1	0.4
パチンコ	24	30	9	9.3	15.0	3.8	8.5	14.0	3.2
映画館での映画鑑賞	25	24	27	35.0	33.0	36.9	39.6	36.8	42.2
園芸・庭いじり・ガーデニング	25	24	26	27.1	21.4	32.6	25.7	20.0	31.2
写真の撮影・プリント	26	26	28	21.5	18.5	24.3	24.9	21.8	27.8
演芸・演劇・舞踊鑑賞	27	34	25	11.4	6.9	15.7	14.5	9.7	19.1
書道	29	36	22	3.8	2.2	5.5	4.1	2.6	5.5
カラオケ	31	29	32	27.2	27.3	27.0	30.7	30.9	30.6
日曜大工	32	37	23	10.7	17.3	4.3	10.9	17.7	4.4
スポーツ観覧	38	36	38	17.5	20.9	14.1	21.5	25.9	17.4
趣味としての料理・菓子作り	39	26	36	15.8	5.6	25.6	17.8	6.6	28.4
将棋	42	47	11	2.4	3.8	1.0	3.2	5.6	0.9

(5) 平均行動日数は「テレビゲーム・パソコンゲーム」が最も多い

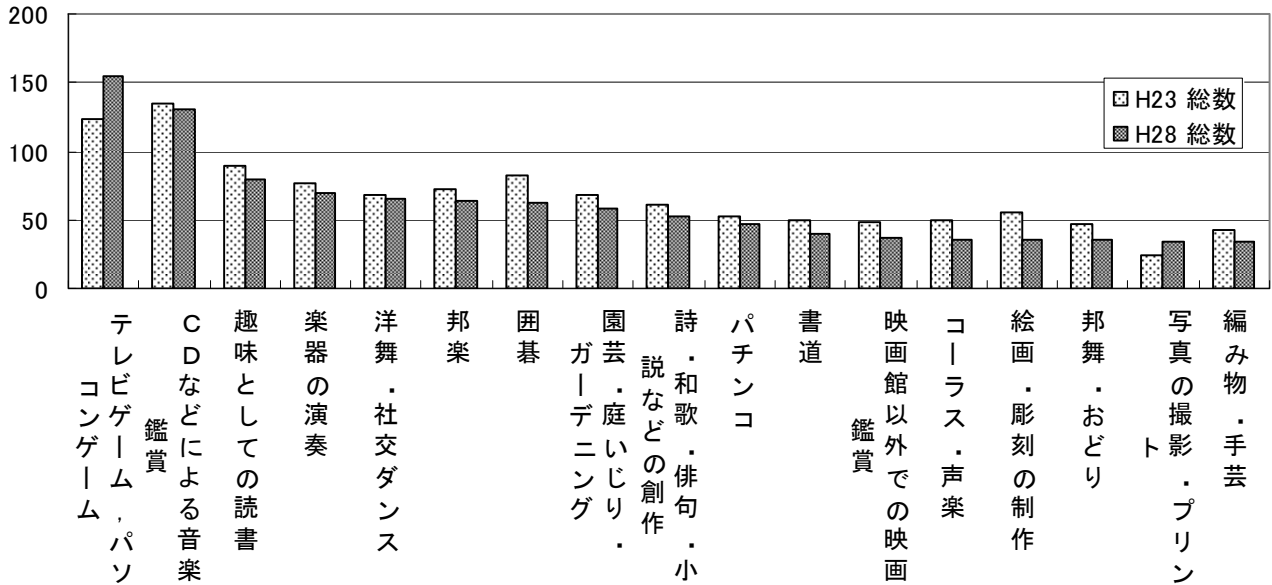
「趣味・娯楽」の種類別に平均行動日数をみると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」が154.6日で最も多く、次いで、「CDなどによる音楽鑑賞」が130.0日、「趣味としての読書」が78.9日などとなっている。

また、平成23年と比べると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」が30.5日、「写真の撮影・プリント」が10.6日増加している。一方、「絵画・彫刻の制作」は20.2日、「囲碁」は19.6日減少している。(図3-7)

男女別にみると、最も多いのは男女ともに「テレビゲーム・パソコンゲーム」で男性166.4日、女性139.4日で、次も男女とも「CDなどによる音楽鑑賞」で男性133.9日、女性125.9日となっている。(図3-8)

(日/年)

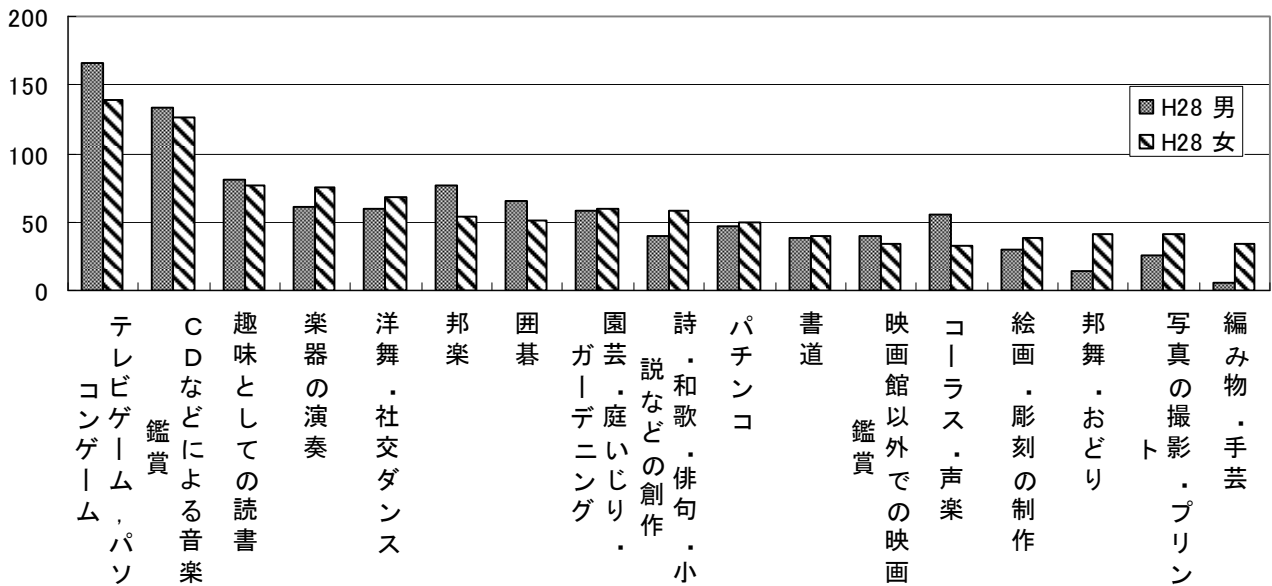
図3-7 主な「趣味・娯楽」の種類別平均行動日数(平成23年、28年)



(注) 平均行動日数(総数)が30日以上の種類を表章。

(日/年)

図3-8 主な「趣味・娯楽」の男女、種類別平均行動日数



(注) 平均行動日数(総数)が30日以上の種類を表章。

4 ボランティア活動

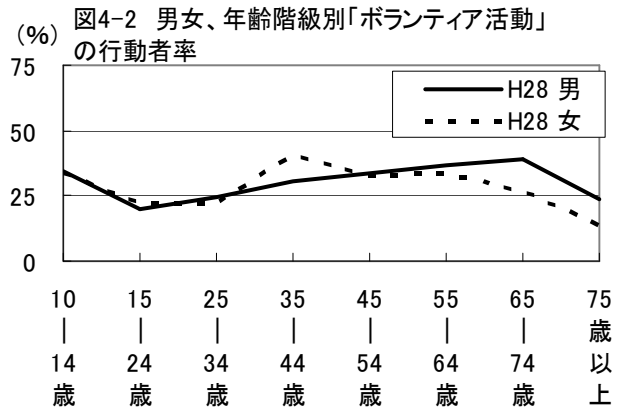
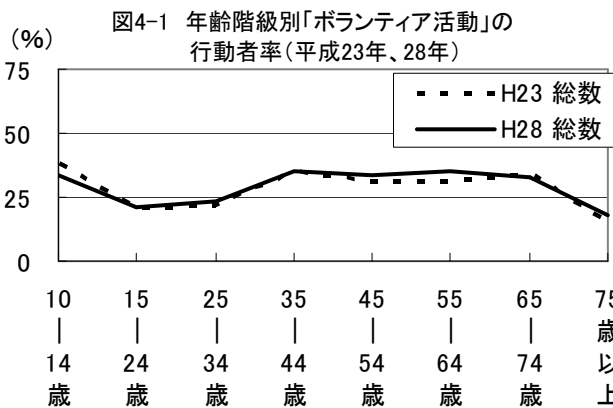
(1) 男性の30.8%、女性の28.0%が何らかの「ボランティア活動」を行っている

「ボランティア活動」を行った人は96万7千人で、行動者率は29.4%となっている。

男女別にみると、男性50万人、女性46万7千人となっており、行動者率は男性が30.8%、女性が28.0%で、男性が女性より2.8ポイント高くなっている。

行動者率は平成23年に比べ0.9ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が2.0ポイント上昇、女性が0.1ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、35～44歳が35.4%と最も高く、75歳以上が17.9%で最も低くなっている。これを男女別にみると、15～24歳及び35～44歳を除く年齢階級では男性の方が高くなっている。(図4-1、図4-2)



(2) 行動者率は5年前より0.9ポイント上昇

種類別に行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が12.4%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が9.1%などとなっている。また、平成23年と比べると、総数で0.9ポイントの上昇となっている。種類別では「安全な生活のための活動」が1.4ポイントの上昇、「災害に関係した活動」が1.8ポイントの低下となっている。(図4-3)

男女別にみると、男性は「まちづくりのための活動」が最も高く、次いで「安全な生活のための活動」、「子供を対象とした活動」、女性は「子供を対象とした活動」が最も高く、次いで「まちづくりのための活動」、「安全な生活のための活動」などとなっている。(図4-4)

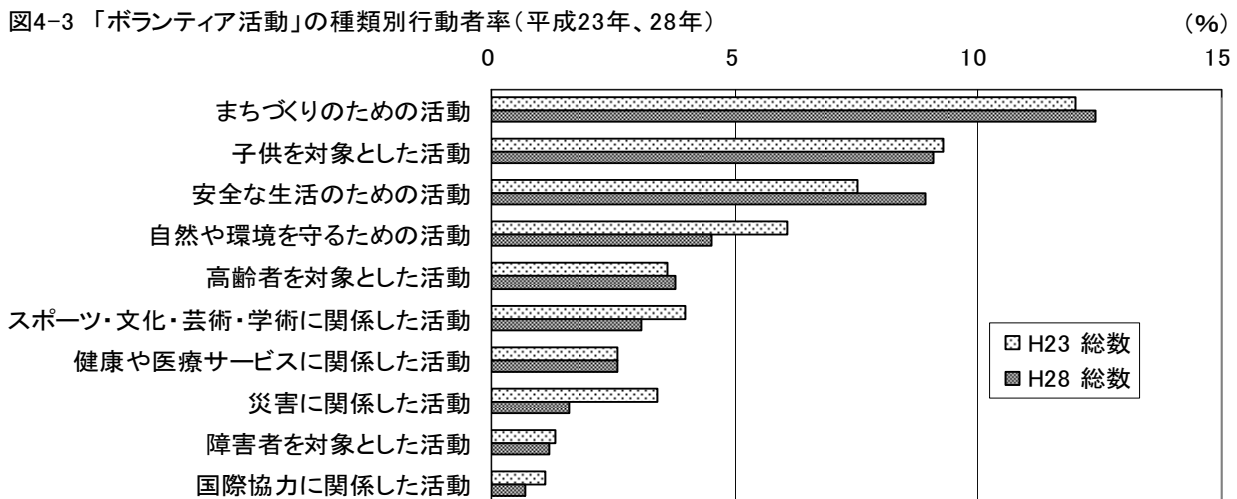
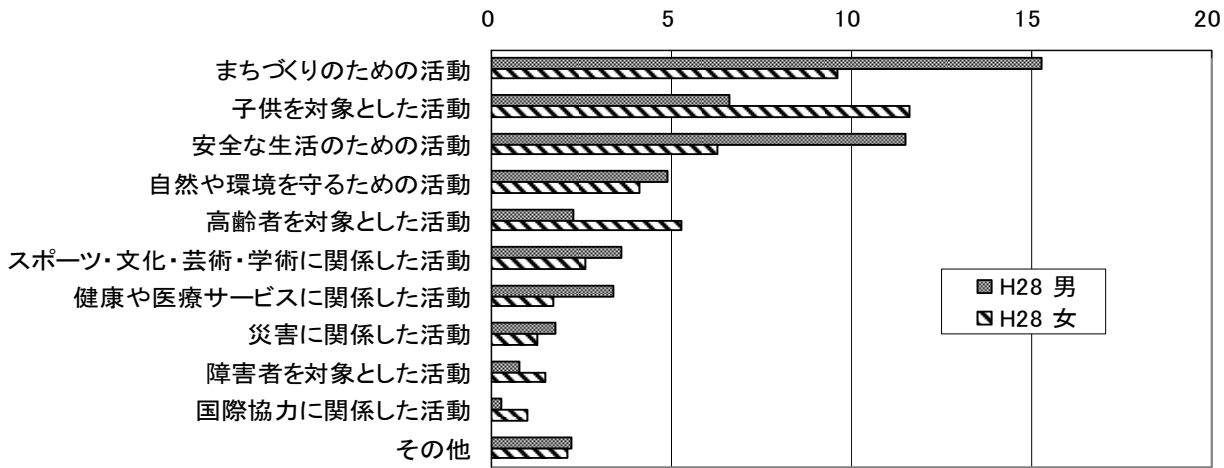


図4-4 男女、「ボランティア活動」の種類別行動者率

(%)



(3) 本県の行動者率は総合 17 位、「安全な生活のための活動」は 1 位

本県の「ボランティア活動」を行った人の行動者率は、全都道府県中 17 位となっている。

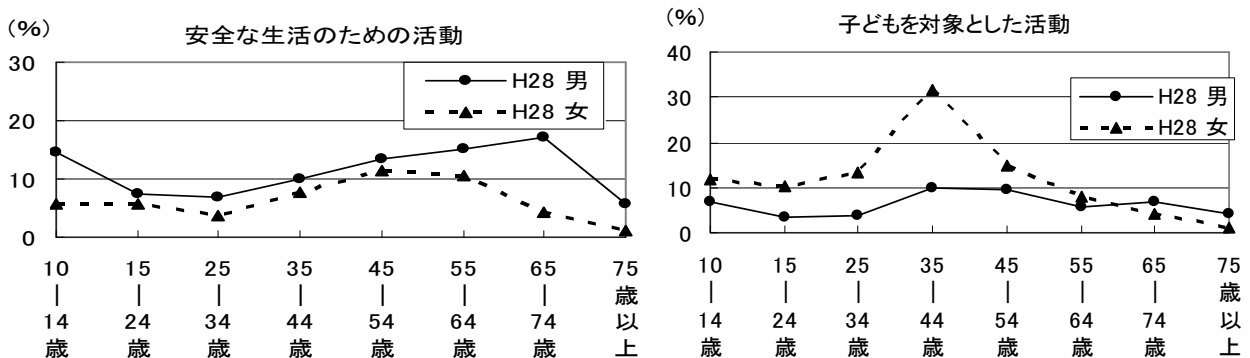
種類別にみると、「安全な生活のための活動」が 1 位 (8.9%)、「災害に関する活動」が 12 位 (1.6%)、「子供を対象とした活動」が 14 位 (9.1%) などとなっている。

男女別に全国比較すると、「安全な生活のための活動」は男性 1 位 (11.5%)、女性 4 位 (6.3%) となっている。また、「子供を対象とした活動」は男性 23 位 (6.6%)、女性 6 位 (11.6%) となっている。(表 4-1) (図 4-5)

表 4-1 「ボランティア活動」に係る行動者率の全国比較表

「ボランティア活動」の種類	全国順位			静岡県の行動者率 (%)			全国の行動者率 (%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	17	15	24	29.4	30.8	28.0	26.0	25.0	26.9
安全な生活のための活動	1	1	4	8.9	11.5	6.3	5.0	5.7	4.2
災害に関する活動	12	9	20	1.6	1.8	1.3	1.5	1.5	1.5
子供を対象とした活動	14	23	6	9.1	6.6	11.6	8.4	6.0	10.6
国際協力に関する活動	21	40	11	0.7	0.3	1.0	0.9	0.7	1.0
自然や環境を守るための活動	23	24	24	4.5	4.9	4.1	4.0	4.3	3.8
まちづくりのための活動	32	22	36	12.4	15.3	9.6	11.3	12.3	10.4
健康や医療サービスに関する活動	33	18	47	2.6	3.4	1.7	2.9	3.0	2.7
高齢者を対象とした活動	33	42	21	3.8	2.3	5.3	3.8	2.8	4.8
障害者を対象とした活動	33	44	31	1.2	0.8	1.5	1.5	1.2	1.8
スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動	42	43	34	3.1	3.6	2.6	3.7	4.6	2.8

図 4-5 男女、種類別「ボランティア活動」の行動者率



(4) 平均行動日数は「障害者を対象とした活動」などが5年前より増加

「ボランティア活動」の種類別に平均行動日数をみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が44.4日と最も多く、次いで「障害者を対象とした活動」が27.7日、「高齢者を対象とした活動」が24.5日などとなっており、最も少ないのは「災害に関係した活動」で4.2日となっている。

また、平成23年と比べると、「障害者を対象とした活動」、「健康や医療サービスに関係した活動」が増加している。(図4-6)

男女別にみると、男女ともに「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も多く、次も男女ともに「障害者を対象とした活動」、次いで男性は「高齢者を対象とした活動」、女性は「自然や環境を守るための活動」などとなっている。(図4-7)

図4-6 「ボランティア活動」の種類別平均行動日数(平成23年、28年) (日/年)

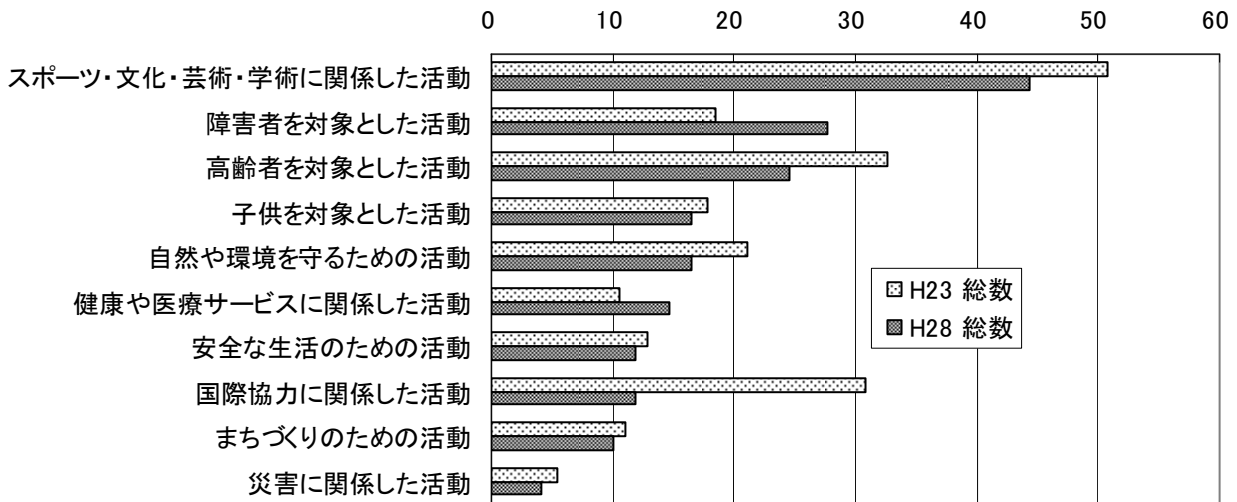
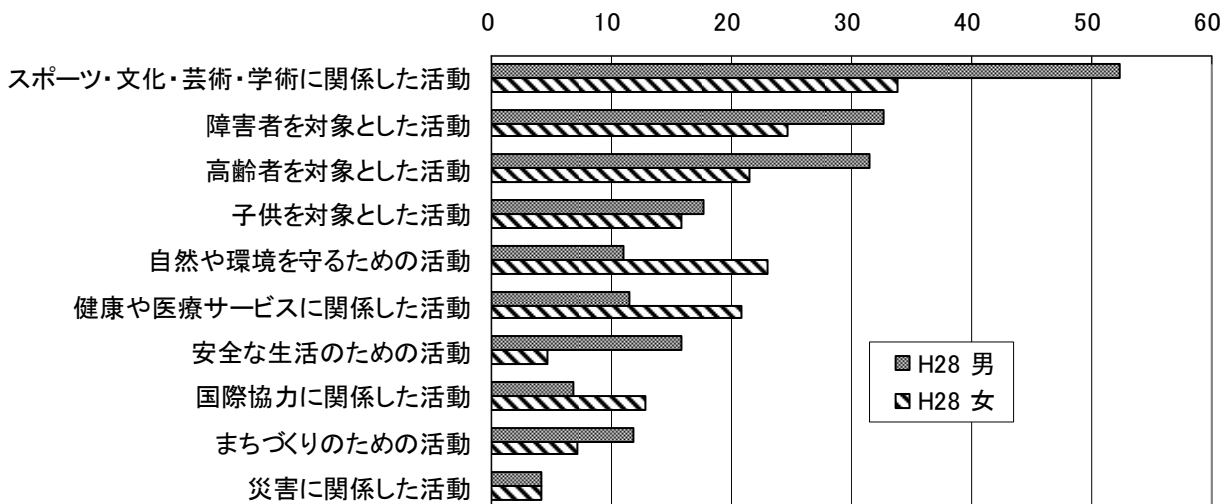


図4-7 男女、「ボランティア活動」の種類別平均行動日数 (日/年)



5 旅行・行楽

(1) 「旅行・行楽」を行った人は242万1千人、行動者率は73.5%

「旅行・行楽」を行った人は242万1千人で、行動者率は73.5%となっている。男女別にみると、男性が115万5千人、女性が126万5千人となっており、行動者率は男性が71.1%、女性が75.8%で、女性が男性より4.7ポイント高くなっている。

行動率は平成23年に比べ2.5ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が3.6ポイント、女性が1.4ポイントそれぞれ上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が85.5%で最も高く、25歳以上は年齢階級が高くなるにつれて低下している。これを男女別にみると、10～14歳を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。(図5-1、図5-2)

図5-1 年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率(平成23年、28年)

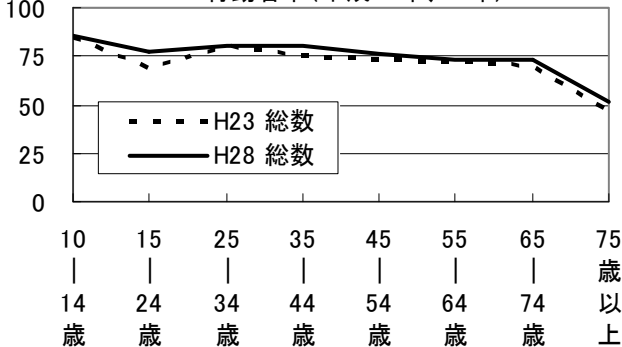
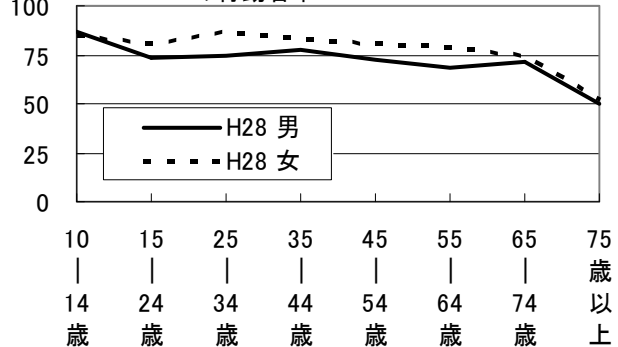


図5-2 男女、年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率

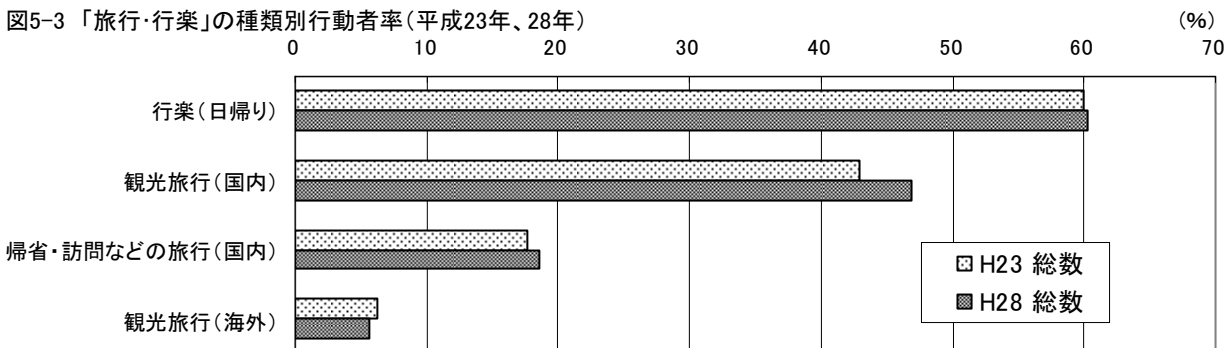


(2) 行動者率は「観光旅行(国内)」が46.8%、「観光旅行(海外)」は5.6%

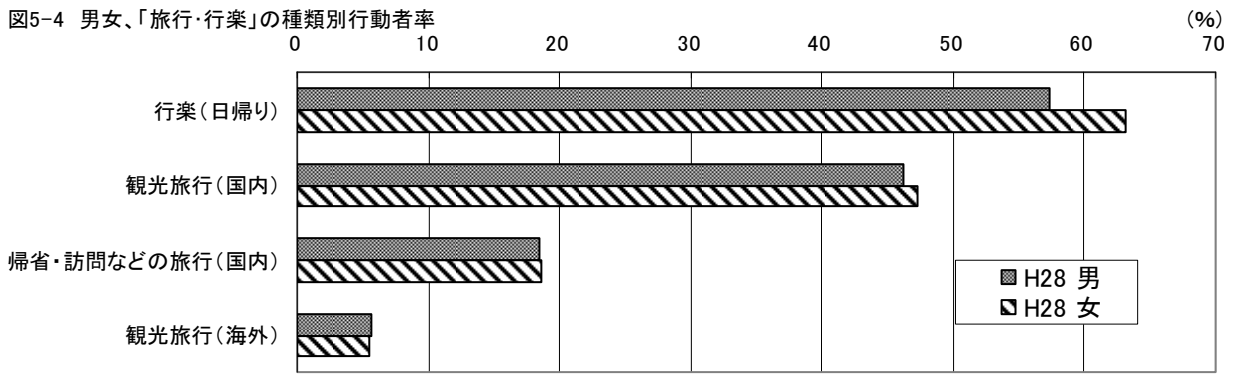
「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽(日帰り)」が60.3%、観光旅行では国内が46.8%、海外が5.6%となっている。また、平成23年と比べると、「観光旅行(海外)」が0.7ポイント低下したのを除き、「観光旅行(国内)」が3.9ポイント上昇するなどすべての種類で上昇している。男性は「観光旅行(国内)」が5.7ポイント上昇するなどすべての種類で上昇している。女性は「観光旅行(国内)」が2.2ポイント上昇したのを除き、すべての種類で低下している。(図5-3)

男女別にみると、「観光旅行(海外)」を除き、すべての種類で女性の方が高くなっている。(図5-4)

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率(平成23年、28年)



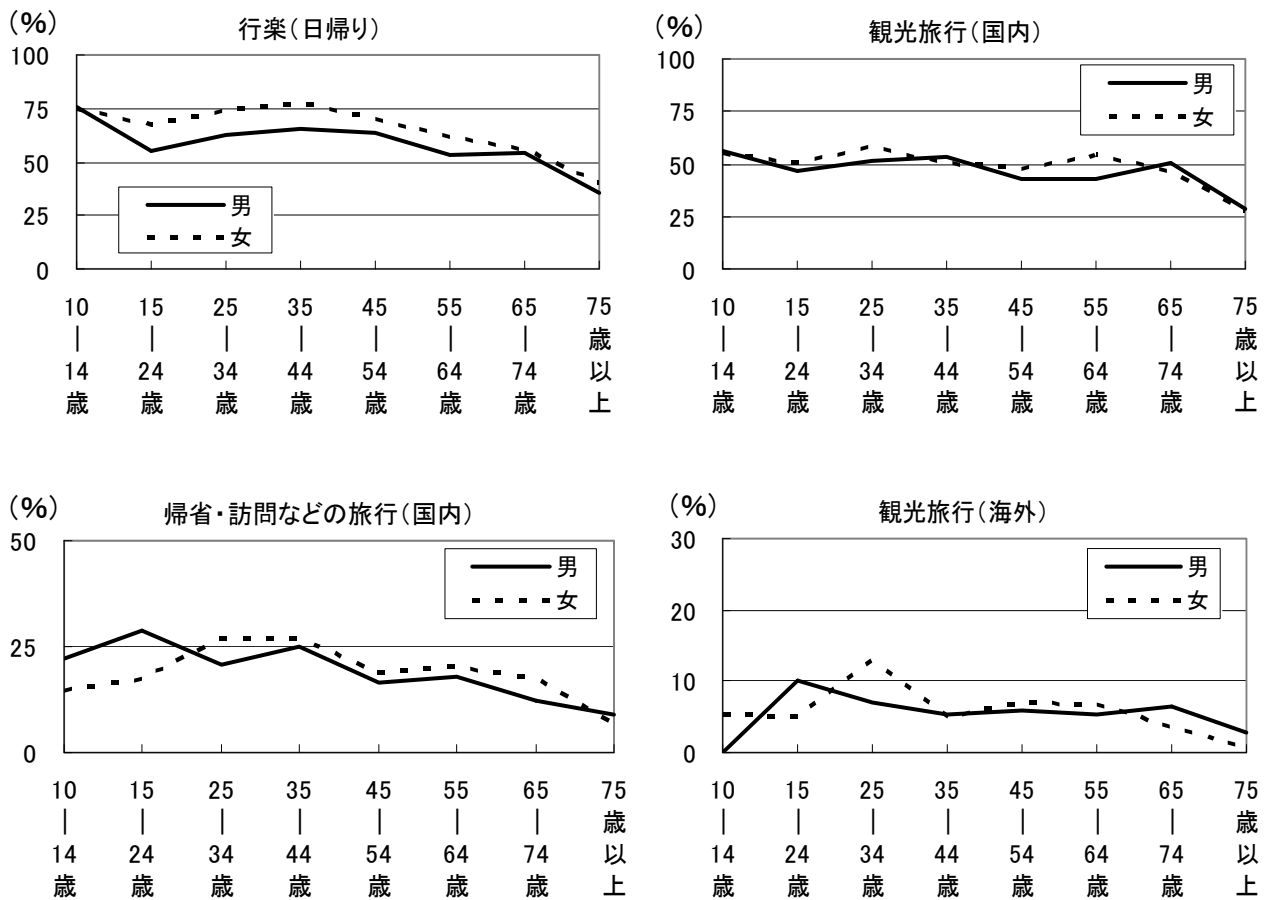
※平成23年は「旅行・行楽」に「業務出張・研修・その他」を含めて調査しており、比較には注意を要する。



(3) 「観光旅行(海外)」の行動者率は、男性15~24歳、女性25~34歳が最も高い

「旅行・行楽」の種類について行動者率を年齢階級別・男女別にみると、「観光旅行(国内)」は男性が10~14歳が最も高く、次いで35~44歳などとなっており、女性は25~34歳が最も高く、次いで55~64歳などとなっている。また、「行楽(日帰り)」については、男性が10~14歳、女性が35~44歳であり、「帰省・訪問などの旅行(国内)」は、男性が15~24歳、女性が25~34歳、「観光旅行(海外)」については、男性が15~24歳が、女性は25~34歳がそれぞれ最も高くなっている。(図5-5)

図5-5 「旅行・行楽」の種類、男女、年齢階級別行動者率



(4) 本県の行動者率は総合 18 位

本県の「旅行・行楽」を行った人の行動者率は、全都道府県中 18 位となっている。種類別にみると、「観光旅行（海外）」(5.6%) が 16 位、「行楽（日帰り）」(60.3%) が 17 位、「観光旅行（国内）」が 22 位（46.8%）などとなっている。（表 5-1）

表 5-1 「旅行・行楽」に係る行動者率の全国比較表

「旅行・行楽」の種類	全国順位			静岡県の行動者率 (%)			全国の行動者率 (%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	18	16	19	73.5	71.1	75.8	73.5	71.1	75.8
観光旅行（海外）	16	14	19	5.6	5.7	5.5	7.2	6.3	8.1
行楽（日帰り）	17	16	17	60.3	57.4	63.2	59.3	56.3	62.1
観光旅行（国内）	22	22	24	46.8	46.2	47.3	48.9	47.4	50.3
帰省・訪問などの旅行（国内）	34	28	38	18.6	18.5	18.6	26.0	25.4	26.6

(5) 「行楽（日帰り）」は年 10 回以上が最も多い

行動者率を旅行頻度別にみると、「行楽（日帰り）」は年 10 回以上、「観光旅行（国内）」、「帰省・訪問などの旅行（国内）」及び「観光旅行（海外）」は年 1 回が最も多くなっている。（図 5-6）

図5-6 「旅行・行楽」の種類、頻度別行動者率

